

中央区道路維持管理計画（概要版）

1 計画の概要

計画の目的

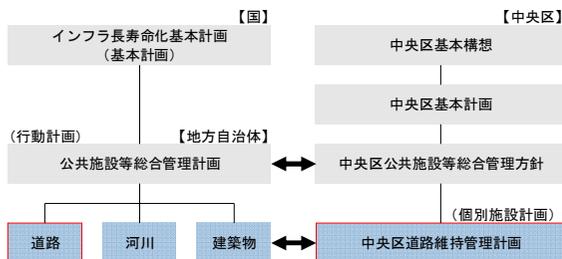
道路を計画的かつ効果的に維持管理していくため、道路の個別施設計画を策定する。

計画の期間

令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間

対象施設

舗装、防護柵・ポラード等、道路反射鏡、道路標識等、ずい道・共同溝



2 現状と課題

現状

- 区内の公道は約193.4km、うち区道は約155.3kmで約80.3%を占めている。
- 区の道路率(区の全面積に対する道路面積の割合)は約29%で、23区の中で最も高い率。
- 区道には、シンボルロードである幹線道路から区民の生活に欠かせない細街路(生活道路)まで、それぞれの地域特性を踏まえた道路が存在する。
- 路面性状測定結果では、舗装路面の健全性を示す指標(MCI値、ひび割れ率、わだち掘れ量)で、調査対象の9割以上が健全という結果が得られ、舗装状態は比較的良好。

課題

- 現在の舗装路面の状態が良好である一方、将来的には経年による老朽化が進み、改修が必要となる路線が集中し、多くの費用が発生することから、早い段階で補修を行う予防保全型管理による効率的な維持管理を行う必要がある。
- 再開発事業や建物の建築工事、インフラ企業者による工事が多く、その掘削跡は時間経過とともに既存舗装との間に段差が生じやすくなることから、安全で快適な道路とするため、速やかな復旧に努める必要がある。

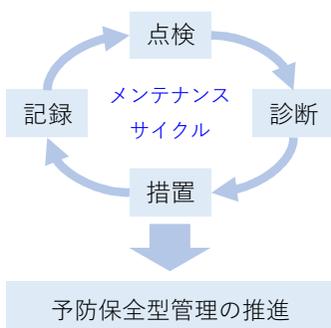
3 道路維持管理計画

基本目標

誰もが安心・安全に利用できる道路環境を維持するとともに、維持管理費を軽減・平準化し、財政の健全性を高める

基本方針

- 1 効率的・効果的な道路点検体制の構築
- 2 適切な維持補修
- 3 計画的な補修・改修措置による予防保全型管理の推進



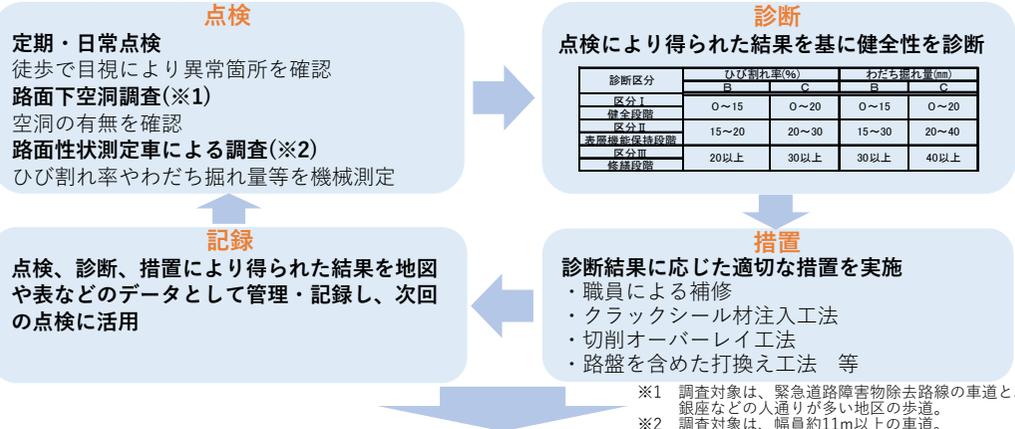
道路の分類および管理指標・基準の設定

国の舗装点検要領に基づき、道路の特性に応じて下記のとおり分類する。(分類Aの道路は、高速道路等の高速走行が可能な高規格道路であるため、区道での該当はない。)管理指標はひび割れ率、わだち掘れ量とし、管理基準は下記のとおり設定する。

分類	対象路線	管理基準	
		ひび割れ率(%)	わだち掘れ量(mm)
B	街路環境(シンボルロード)整備路線	20未満	30未満
C	分類Bを除く幅員約11m以上の道路	30未満	40未満
D	分類B、Cを除く生活道路	-	-

※分類Dは交通量が比較的小さいため、管理基準は設けず、目視点検結果を基に補修・改修を実施。

メンテナンスサイクル



予防保全型管理による予算の平準化とライフサイクルコストの縮減（50年間で約72億円）

措置の優先順位

道路の分類(道路特性)や健全性(損傷度)の診断区分に基づく優先順位と、道路のバリアフリー化等の事業による改修計画との整合を図りつつ、総合的に判断し、適切な措置を実施する。

改修計画

10年間の改修計画は、下記のとおり。局所的な損傷は、改修計画によらず適宜、補修を行う。

年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12
路線数(路線)	6	5	4	4	4	6	5	5	5	4
施工延長(m)	900	760	620	810	620	970	810	920	800	650

※改修計画は点検結果により、変更となることがあります。

道路施設の点検・調査・内容

下記の表に基づき、各道路施設を点検する。

道路施設	点検内容	点検頻度	点検項目
舗装・街築	路面性状・空洞調査	5年に1回	●ひび割れ ●わだち掘れ ●段差 ●空洞の有無 等
	定期点検	3か月に1回	
防護柵・ポラード等	定期点検	3か月に1回	●ボルトの緩み状況 ●変形、破損状況 ●発錆、腐食状況 等
道路反射鏡	定期点検	3か月に1回	●鏡面の向き、高さ及び汚れの状況 ●変形、破損状況 ●発錆、腐食状況 等
道路標識等(小型)	定期点検	3か月に1回	●標示板の汚れ、塗装の状況 ●変形、破損状況 ●発錆、腐食状況 等
道路標識等(大型)	委託点検	5年に1回	●標示板のき裂状況 ●ボルトのゆるみ、脱落、破損状況 ●変形、破損状況 ●発錆、腐食状況 ●基礎部のひび割れ 等
	定期点検	3か月に1回	
ずい道	委託点検	5年に1回	●コンクリートのひび割れ、うき、剝離 ●漏水 ●目地ゴムの劣化 等
	定期点検	毎月	
共同溝	委託点検	5年に1回	●コンクリートのひび割れ、うき、剝離 ●漏水 ●鋼材の腐食 等
	定期点検	3か月に1回	

※日常点検では、職員が移動時に通行する路線を点検します。

4 道路維持管理計画の実現に向けて

安心・安全な道路を長期的な視点を持って維持していくため、PDCAサイクルの循環と以下の取組みにより、良好な道路環境を維持する。

- 職員の目視によるパトロール体制の充実
- 路面性状の劣化予測の見直し
- 区民・事業者との協働
- 工事情報の蓄積
- 新技術・新工法の活用